

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：岐阜県関市池尻 91-2
事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1階D室 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
会長 藤村 伸隆 副会長 山本 義樹 幹事 森 敬 クラブ会報委員長 長谷部 貴司

2022～2023 年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ

「いつも一緒に笑い・夢を描き・そして成長しよう」



4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第2088回例会 2022年12月22日(木)
クリスマス・結婚記念例会 担当 親睦活動委員会

前例会の記録 第2087回 2022年12月8日(木)
東海北陸道グループIM報告 / 担当 会長・幹事

*ロータリーソング「我等の生業」 斉唱

*会長あいさつ 藤村伸隆会長

こんばんは。今日は、山本義樹さん、前田仁夫さん、喜久生明男さんに先日行われましたIMの報告をして頂きます。よろしく願い致します。



最近数日はサッカーのワールドカップで大変な寝不足状態で体調も優れませんが、何度も目頭を熱くなるほど感動させて頂き、代表選手はもちろんですが、関係あるすべての皆様に感謝ですね。日頃はサッカーより野球が好きでいつも見ているのですが、やはり日本代表戦となると応援にも力が入りますね。これからのサッカー界の世界での活躍に本当に期待を持たせて頂きました。

お話は変わりますが、4年ぶりに上之保で産業祭が開催されました。大藪太さんが実行委員長で私も実行委員という事で参加しておりました。土屋さんも商工会イベント委員と言う事で、11月6日の里山森

林整備事業に3名とも参加できず申し訳ありませんでした。11月5日、6日に開催され、二日間たくさんの皆さんにご来場頂き大成功でした。

6日の日曜日は岐阜には木村拓哉さんがおみえになり、重ねてコロナ禍もあり大藪委員長も大変でしたが、協賛金も地域の皆さんの思いもあり今までで最高の金額が集まり最高の産業祭だったと思います。大藪委員長ご苦労様でした。

コロナ禍にもかかわらず、対策も行い久しぶりに大きなイベントが開催されたのは本当に地域にとっても良かったと思います。私もネイチャーランドかみのほキャンプ場の仲間と出店をして2日間とも午後2時頃にはすべて完売と言う事で皆、大変でしたが楽しい2日間すごさせて頂きました。

*東海北陸道グループIM報告

山本 義樹会員

先日開催されました東海北陸道グループIMに付きましてお話をさせて頂きます。ホストは、関ロータリークラブで中部学院大



学 関キャンパスにて開催されました。会場の入口駐車場から関クラブのメンバーの皆さんが案内係と

して各部所にて誘導をされてみえまして会場まではスムーズに入る事ができました。最初はオープニングセレモニーとして中濃保育園の園児達の演奏で30人ほどの園児達で保育園の先生方がずいぶん練習をされた事と思いますが、最初の盛り上げをしてくれました。

亀井高利ガバナー補佐様の点鐘で始まり「君が代、奉仕の理想」斉唱のあと、ガバナー補佐様より開会のご挨拶を含め、来賓・特別出席者の紹介がございました。関市長 尾関健治様、岐阜県議会議員 尾藤義昭様、中部学院大学学長 江馬諭様、第2630地区ガバナー 高橋伸治様、第2630地区幹事 小川真奈様、第2630地区財団委員長 堀部哲夫様等の皆様のご紹介と出席者へ歓迎のことばを述べられました。当日の出席会員は80名程度であり、歓迎の挨拶は関クラブの古田貴巳会長さんが予定でございましたが、都合により副会長の林 昇様が今回のIMでは会員相互間の情報交換と親睦を大いに深めてほしいとお話しされました。

高橋伸治ガバナー様のあいさつでは、先般の地区大会開催に際しては多くの会員の参加と特に財団寄付につきましてたいへんご協力を賜った事に対してお礼を述べられました。そしてRI会長ジェニファー・ジョーンズ氏のテーマ「イマジネロータリー」のごとくロータリーの使命はロータリアンのネットワークを通じて人々に奉仕し、世界理解と親善と平和を推進する事であると言われました。そして、日本のロータリーの歴史は「平和への人づくりの歴史」であると言ったお話を戴きました。

続いて来賓の関市長 尾関健治様のご挨拶をされ日頃の多くのロータリーの奉仕活動に対してお礼を述べられ、現在の国際情勢の不安定な中で先般、沖縄を視察されて来たことについて、当地でのいまだ残る戦争の足跡についてお話をされました。

そして休憩を挟んで第二部であります基調講演に入りました。テーマは「国際情勢や災害派遣からみる自衛隊の現状」と言うことで自衛隊岐阜地方協力本部長 井口裕康様による1時間程度の講演でございました。現在、アジア地区の脅威であります中国は長距離ミサイルを2000発所有しているそうですが、日本はというと1000キロ飛ばせるミサイルは一つも所有していないそうです。今国会では軍備に

ついて調整がされているようですが先々が心配であります。

総括のまとめはガバナーの高橋伸治様が本日お礼の言葉とロータリーがウクライナに対して現在国際的に支援をしており、ロータリーの平和活動に皆様に協力をお願いしたい旨のお話をされ合わせてロータリー財団への寄付協力により一層ご理解を戴きたいと厚くお話をされました。

この後、次期のIM開催クラブが発表され郡上八幡ロータリークラブが指名されクラブ会長の水上成樹様より2023年10月29日(日)に「健康をテーマ」にて開催されることが紹介されました。最後に亀井高利ガバナー補佐様の点鐘でIMが終了しました。

前田 仁夫会員

今回のI.Mのテーマは「安心、安全そして平和」～今こそ真剣に考える時！～をテーマに開催されました。台風や大雨等による被害



や大きな地震も心配されています。また、ロシアによるウクライナへの侵攻や中国の武力による台湾併合の可能性も取りざたされて軍事的な緊張も高まっています。さらに北朝鮮が過去にない頻度で日本海に向けてミサイルを発射している現状など総合して考え自衛隊岐阜地方協力本部 本部長 井口裕康様に関ロータリークラブさんが依頼されたのだろうと私は思っております。「国際情勢や災害派遣から見る自衛隊の現状」という演題で話されました。中部学院大学の会場へは、ご本人は隊服を着用され2名の部下の方と来訪されました。今日のように私がお話しするとき、印刷物など後に残るものは一切提供しないとのことでした。

ここで自衛隊地方協力本部について説明がありました。この地方協力本部は自衛官の募集、広報など担当する陸上・海上・航空自衛隊の共同機関で自衛隊の地方組織で2006年(平成18年7月31日)、防衛庁が現防衛省の組織改編に伴い、自衛隊地方連絡が改正され、現在は北海道に4ヶ所、各都道府県に1ヶ所ずつ計50ヶ所にあります。職員は自衛官、事務官の混成です。自衛隊の国際平和協力活動の際には、留守家族への援護業務など行うとのことでした。自衛官の募集と広報・援護を担当する岐阜地方協力本部では年間200名の求人募集があるとのことでした。

た。ウクライナ侵攻と日本の安全保障の話がありましたが、ちょうどその時少し席を立ち不在でしたのでご容赦ください。日本周辺の中国や北朝鮮など話も出まして中国では日本に到達するミサイルは2000発以上あるし北朝鮮も数百発は保有している。一方、日本はゼロです。

東日本大震災の自衛隊支援活動についても話されました。去る2011年（平成23年）3月11日午後2時46分頃東北地方太平洋沖地震によってもたらされた大災害です。地震の規模はM9.0で気象庁観測史上最大の地震でした。宮城県北部で震度7、岩手、宮城、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉の各県で震度6を記録した。この地震の大津波が東北地方から関東地方の太平洋岸に襲来し各地に甚大な損害をもたらした。死者13,000名以上、行方不明者14,500名以上、67,000以上の建物が全半壊しました。また、JR各線をはじめ鉄道が長期間停止、地震発生後、福島や第一原子力発電所において放射性物質が漏出する重大事故が発生しました。原子力の災害対処、人命救助などの公共活動に自衛隊、警察、消防、地方自治体、民間人など延べ325万人が長期の参加をしたとのことでした。

また、岐阜地区・長野地区においては御嶽山の噴火により自衛隊と自治体、警察、消防による人命救助などビデオによる生々しい自衛隊の現場活動を見ました。他に恵那市で発生したトンコレラは家畜伝染病予防法に発生すると県知事の要請により自衛隊も参加し、全ての豚の殺処分にも参加しているとのことでした。

最後は、今後30年以内に70～80%発生確率のある南海トラフ地震が起きた場合、関東地方から九州地方で震度7以上、津波10m、高知県から三重県までです。死者数は岐阜県で1,000人以下、愛知で15,000人、三重県で31,000人、静岡県で88,000人の予想で東海地方が中心となる場合は死者12万人～23万人、建物全壊等79～209万戸、被害総額220兆円以上という試算も出ているようです。

いずれにしても自衛隊は、国防の他にも災害時に私たち国民を守って頂く大変な仕事であることをあらためて再認識しました。天災は忘れた頃にやってくるという諺を子どもの頃教えられましたことを思い出している私です。

喜久生明男会員

講演の前半はウクライナ侵攻などの世界情勢と日本の安全保障を中心にし、後半は日本国内での災害派遣についてお話を伺った。

約30年前の1991年にアメリカがイラクに対して行った湾岸戦争ではステルス、精密機器、ネットワーク、サイバー空間などの先進技術等を利用した戦争が行われ短期間で戦争は集結した。今回のウクライナ侵攻では軍事的な面から見ると、世界最強の陸軍と思われていたロシアの戦車部隊が制空権を獲得せずに侵攻を開始したため、ロシアの戦車は対戦車ミサイル（キッシンジャー、ジャベリン等）にて大きな打撃を被っている。また、ドローンや衛星によるネットワーク、EU内の上空を飛ぶ警戒監視飛行機（AWACS）によるデジタル情報などの西側からの協力を利用したウクライナ軍はロシア軍の位置情報などを把握していたのに対し、暗号対策のない3D携帯を利用したロシア軍では情報は筒抜けで情報獲得では大きな遅れを取っていた。海軍においてもロシア黒海艦隊の旗艦であるミサイル巡洋艦「モスクワ」が対戦艦ミサイル、ネプチューンにより撃沈されている。このように、今回のウクライナ侵攻は新しくも古い戦争の形態（砲撃戦など）であり、戦争の長期化に繋がっていると分析していた。ウクライナ戦争では戦場はウクライナ国内のみである点も特徴的です。2014年のクリミア併合があまりに簡単に成功したことから、今回のウクライナ侵攻も安易に短期決着と考えていたと思われます。

今回のウクライナ戦争は国際秩序への挑戦とも取れるようです。それは国連の常任理事国が独立国を侵略したことであり、また、核の影をちらつかせています。ロシアと中国との関係も以前と違い、中国は一步引いた感じを見せています。アジア諸国の対応では日本、韓国のみ西側の経済制裁に加わっていますが、その他のアジア諸国の多くはロシアからのエネルギー制裁を懸念して西側の制裁には参加していません。日本の世論にも変化を与え、国防に関する関心は高まっており、平和ボケした国民も危機感を感じている人が増えています。中国の海洋進出についてもお話があり、中国は清王朝時代から失われた領土の回復が夢であり、着々と軍の近代化、軍の強大化にともなって段階的に海洋進出を拡大させてお

り、日本近海への艦艇の横行が盛んに行われています。中国からすると台湾は中国の一部であり、尖閣諸島は台湾の一部であるとの考えのようです。日本を取り巻く状況を考えると、北はロシアによる北方4島の不法占拠、西は北朝鮮によるミサイルの飛来、南は中国による海洋進出と3方向から安全を脅かすものが存在しています。日本の国防費は米国の約1/20、中国の1/6規模です。戦争に備える訳ではありませんが、国防に対する対策は非常に乏しいと言えます。中国はミサイル2000発を保持して、北朝鮮はミサイル数百発を保有しているのに対し、日本のミサイル保有は0発です。防衛能力でも継戦能力として備蓄は乏しく、今後の防衛整備では物だけでなく情報戦略を司る人の強化も必要と思われました。

災害派遣について近年では地球温暖化による影響なのか日本全国、大雨による災害が多くなっています。その他では東日本震災とそれに伴った原発事故、御嶽山の火山噴火による事故に対する災害派遣について実例を聞きました。派遣に関する法律は災害対策基本法、自衛隊法による枠組みがあり、自衛隊は災害発生と共に準備をしていますが、自治体の長からの派遣要請が無ければ動けないそうです。陸自では1時間、海自と空自では2時間で対応出来るそうです。東日本震災では延320万人、95万輦の出動があったそうです。最大10万人の動員があり、これは陸海空自の隊員数20万人の半分に当たります。派遣の72時間以内は人命救助が最大の使命であり、その後は生活支援（給水、給食、入浴、医療など）、生活再建と時間と共に変化してきます。共助が大切であり、自衛隊、警察、消防、自治体の隊員職員が協力し合うことにより大きな成果を上げることが出来ます。人命救助や捜査では重機は使えず、人によるしかないためマンパワーが必要になります。原子力災害では原子炉の冷却のため、決死の覚悟で自衛隊のヘリが原子炉建屋の上から水を撒いていた事を思い出します。

平成30年の年末に岐阜県内で発生したトン（豚）コレラでは自治体職員との共同作業での豚の処置を行い、後日には「岐阜モデル」として全国の対処法となったそうです。

御嶽山の噴火後の救助活動では映像による記録を見

せていただきましたが、噴火後の噴石による避難所の傷み具合はすざましく、火山灰の量も胸まで浸かる場所もあり、救助や遺体捜査には大変な苦労を伴っていたことがわかりました。特に雨の後の火山灰は泥沼の中を歩いて進むことが困難な様子が分かりました。ここでも遺体を見つけることはマンパワーしかなく、エリアを区切っての地道な捜索を繰り返すという大変な様子がわかりました。

今後おこる可能性を秘めている南海トラフ地震は30年以内に70～80%の発生確率です。被害者数では東海4県（岐阜県は最小）で16万人が予想され、四国九州に及べば更に倍増の可能性があると思われま。東日本大震災の10倍以上の被災者の数が予想されますので、自衛隊の出動は100万人（現在の自衛隊員数は20万人です）を要する事になり、自衛隊のみでは不可能な数字を示しています。自治体、警察、消防を合わせても足りない数字という事になります。国防も災害も避けて通れないものです。他国と自然が相手ですが、各個人、各家庭が防災と災害対策を考え、準備しておく必要があると考えさせられました。

*出席委員会

会員数29名、本日の出席18名です。

*ニコボックス委員会

・会長・副会長、幹事

先般の東海北陸道グループIMには多くの出席を戴きまして大変ありがとうございました。本日発表者の皆様には宜しくお願い致します。

18名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

- ・会長・幹事会において亀井ガバナー補佐より報告ガバナーの選出要請がありグループ内で立候補者を募りましたが、候補者はみえませんでしたので、その旨ガバナーに回答予定
- ・例会終了後、理事・役員会を行います。

<次例会の案内>

第2089回 2023年1月12日（木）

夫婦同伴 新春例会

担 当 会長・幹事・親睦活動委員会